

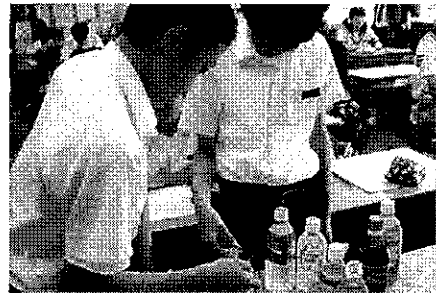
平成19年度

# 文部科学省食育推進委託事業

栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業

地域に根ざした学校給食推進事業

## 〔報告書〕



山梨県教育委員会

## ・ ・ ・ ・ 目 次 ・ ・ ・ ・

○はじめに	スポーツ健康課長 今井三千雄 ……	2
○学校を中心とした家庭・地域との連携による食育推進に期待すること	検討委員会委員長 高橋 智子 ……	3
○山梨県教育委員会の学校における食育の目標 ……………		4
○食育推進委託事業 推進地域、実践中心校等 一覧表 ……………		5
「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」		
○甲府市、甲府市立琢美小学校、甲府市教育委員会 ……………		7
○笛吹市、笛吹市立八代小学校、笛吹市教育委員会 ……………		19
○大月市、大月市立大月東中学校、大月市教育委員会 ……………		31
「地域に根ざした学校給食推進事業」		
○韭崎市、韭崎市立韭崎西中学校、韭崎市教育委員会 ……………		45
○南部町、南部町立睦合小学校、南部町教育委員会 ……………		57

## はじめに

児童生徒が心身ともに健やかに育つことや、生きる力をはぐくみ、生涯にわたって健康に過ごせることは、だれもが願うところですが、このためには、生きていくために極めて大切な食生活を健全な状態で維持していく必要があります。

しかしながら、近年の社会環境や生活様式の変化に伴い、食の大切さに対する意識が希薄になり、朝食の欠食や偏った栄養の摂取等、児童生徒の食生活の乱れが目立つようになったことから、「食育」が大きな社会問題として取り上げられるようになりました。

こうした中で、国民の食育の推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、食育基本法が施行されました。同法では食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものとして位置づけております。

県教育委員会においては、児童生徒が食に関する正しい知識や望ましい食習慣等を身につけることができるよう、学校における食育を推進するために、「やまなし食育推進計画」の策定を受け、平成19年3月に「学校における食育推進のための指導手引き」を作成し、県内の公立学校の全教職員等に配布したところです。各学校においては、この手引を参考に、校長のリーダーシップのもと、平成19年度から配置された栄養教諭、また給食主任や学校栄養職員などが中心となり、食に関する指導全体計画を作成したり、給食の時間や関係する教科において、また家庭や地域と連携する中で、食育に関する取組を行っているところです。

さらに、本県の学校における食育推進の発展に資するために、栄養教諭が配置された学校を中心とした地域において、文部科学省の委託事業である「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」を3地域で、「地域に根ざした学校給食推進事業」を2地域で受け、食育に関する実践的な調査研究を行ってきたところです。

この報告書は、当文部科学省委託事業の実施内容を収録したものです。是非多くの学校で活用していただき、この報告書が、食育ひいては健康教育推進のための大きな牽引役になることを願っています。

結びに、当事業を精力的に実施していただきました5つ推進地域、実践中心校の皆様には、心から感謝を申し上げます。

平成20年2月

山梨県教育庁スポーツ健康課長

今井 三千雄

## 学校を中心とした家庭・地域との連携による 食育推進に期待すること

平成 17 年に施行された食育基本法の前文には、“子供たちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」を選択する力を習得し、健全な食生活が実践できる人を育てる食育を推進することが求められている”と記されている。この食育基本法をうけて、平成 18 年度から 22 年度までの 5 年間で対象として、国民運動として食育に取り組み、国民が生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現を目指すことを目的として、文部科学省より食育推進基本計画が示された。

この食育推進基本計画をうけて、山梨県では平成 19 年より、栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業が甲府市琢美小学校、笛吹市八代小学校、大月市大月東中学校を中心とした各推進地域において、また、地域に根ざした学校給食推進事業が韭崎市韭崎西中学校、南部町睦合小学校を中心とした各推進地域において、取り組んでいる。これらの推進事業の 1 年目を終えた平成 19 年度の事業報告では、いずれの学校においても児童や保護者を対象としたアンケート調査により、生活リズムの調査が行われ、その結果、毎朝の朝食の喫食率や起床時間などの生活習慣が報告された。食文化の伝承としての郷土料理や地域の食産物の利用については、主に調理実習が実施されたことが報告されている。また、今年度の推進事業の内容が教職員および保護者に理解されたことより、地場産物の学校給食への利用率の増加も報告された。いずれの地域の事業報告をみても、食育推進事業の学校、家庭、地域に対する成果が認められる。

平成 20 年度は、19 年度の検討結果を基に地域、学校、家庭における子供の食育を中心に、栄養バランスが優れた日本型食生活を実践することによる生活習慣病の予防、食糧自給率のさらなる向上、学校給食への郷土料理の導入による伝統ある食文化の伝承など、引き続きの研究、検討が望まれる。

平成 20 年 2 月

「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進検討委員会」及び

「地域に根ざした学校給食推進事業検討委員会」委員長

山梨県立大学 准教授 高橋 智子

## 学校における食育の目標

本県における児童生徒の現状を踏まえた課題解決に向け、県教育委員会では、次の4つの目標を設定し、その達成を目指した取組を推進していきます。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 朝ごはんを毎日食べましょう</li><li>2 栄養のバランスがとれた食事をしましょう</li><li>3 「食」に対するマナー、感謝する気持ちを身に付けましょう</li><li>4 地域の食文化を知りましょう</li></ol> |
|---|

各学校においては、児童生徒・家庭・地域の実態に即して、以下に示すような取組を行い、それぞれの目標の具現化を図ってください。

### 1 朝ごはんを毎日食べましょう

- 特別活動等を通して、望ましい生活習慣としての朝食の大切さを理解させる。
- 栄養教諭・養護教諭・学校栄養職員が中心となり、家庭との連携を図りながら、朝食の大切さについての啓発を図る。

### 2 栄養のバランスがとれた食事をしましょう

- 家庭科や保健体育科をはじめとする教科等において、栄養バランスの大切さについて理解させる。
- 栄養教諭・学校栄養職員や地域の関係機関等の専門性を活かし、食に関する指導の充実を図る。
- 給食実施校においては、学校給食を生きた教材として活用し、給食の時間や授業の充実を図る。

### 3 「食」に対するマナー、感謝する気持ちを身に付けましょう

- 給食の時間、学校行事、道徳、特別活動等を通して、食に対するマナー、食に関わる人たちに感謝する気持ちを育む。
- 各種通信、講演会、給食試食会等を通して、家庭への啓発を図る。

### 4 地域の食文化を知りましょう

- 総合的な学習の時間等において、体験的な学習を通して、地域の食文化に対する関心を高める。
- 給食実施校においては、地域の生産者等と協力体制を築き、学校給食に地域の食材を利用した献立、郷土食、行事食を積極的に取り入れ、地域の食文化に対する理解を深める。

これらの取組を推進するに当たっては、それぞれを関連させ、総合的に指導していくことが重要であり、そのための全体計画が不可欠です。

各学校においては、栄養教諭、学校栄養職員等、担当教員が中心となり、食に関する指導全体計画及びそれに基づく年間指導計画を作成し、全職員の共通理解の下、学校教育全体を通して食育を推進していくことが大切です。

## 食育推進委託事業 推進地域、実践中心校等 一覧表

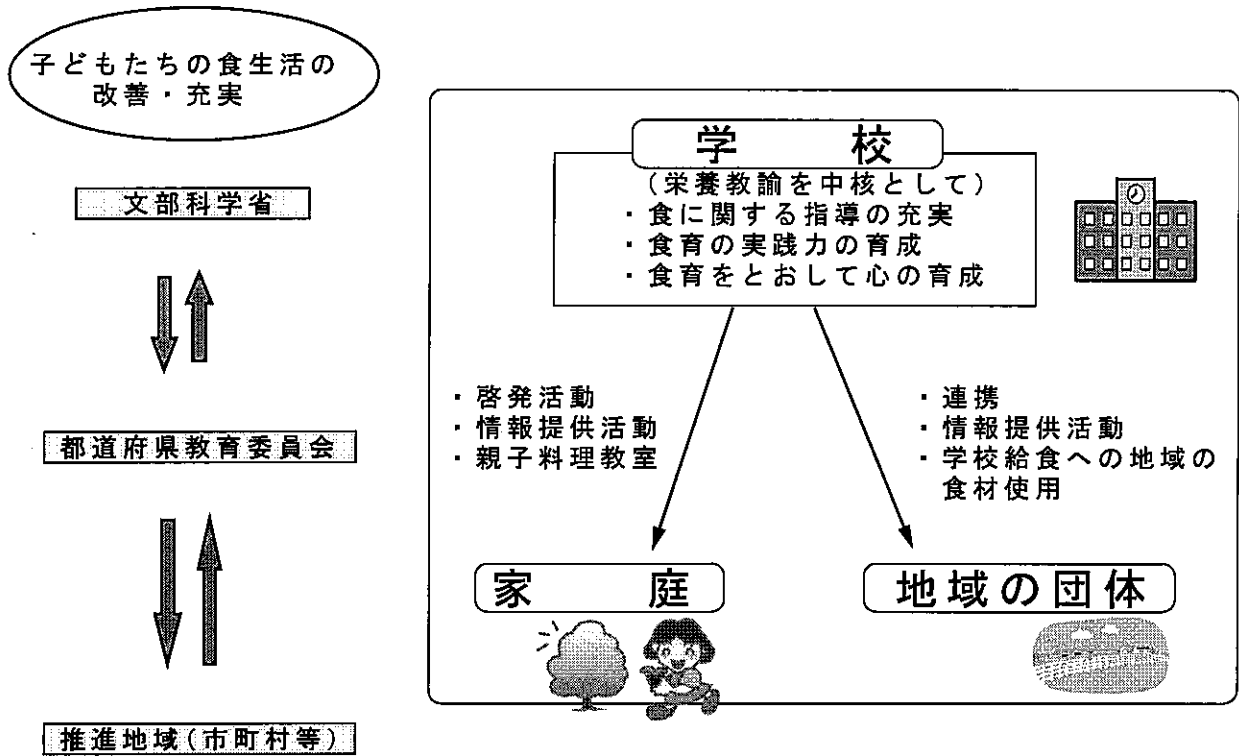
### ○栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業

推進地域	実践中心校	校長名	電話番号
	住所	教育委員会担当者名	電話番号
甲府市	甲府市立琢美小学校	小林 誠	055 - 233 - 4809
	甲府市朝気 1 - 2 - 52	柏木 精一	055 - 223 - 7321
笛吹市	笛吹市立八代小学校	稲木 幹夫	055 - 265 - 2021
	笛吹市八代町岡 780	鬼島 和昭	055 - 265 - 4851
大月市	大月市立大月東中学校	條々 篤美	0554 - 22 - 2241
	大月市大月 2 - 15 - 11	鈴木 要一	0554 - 22 - 2111

### ○地域に根ざした学校給食推進事業

推進地域	実践中心校	校長名	電話番号
	住所	教育委員会担当者名	電話番号
韮崎市	韮崎市立韮崎西中学校	矢巻 令一	0551 - 22 - 1431
	韮崎市神山町鍋山 1 - 1	輿石 知也	0551 - 22 - 1111
南部町	南部町立睦合小学校	山田 勇	0556 - 64 - 2043
	南巨摩郡南部町南部 4376	望月 秀人	0556 - 64 - 4842

栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業



栄養教諭が配置されている学校

テーマ

1. 各教科等における食に関する指導の充実のための取組
2. 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組及び家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究
3. 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

「栄養教諭を中核とした  
学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」

- ・ 推進地域 甲府市
- ・ 実践中心校 甲府市立琢美小学校
- ・ 事業委託先 甲府市教育委員会



# 事業報告

各テーマにおいて、調査研究の具体的内容や研究結果

## 1. 推進地域（甲府市）実践中心校（琢美小学校）

### テーマ1 各教科等における食に関する指導の充実のための取組

- ① 豊かな心と体を育み、自ら実践できる子どもの育成をめざし、学級活動や各教科、総合的な学習の時間において栄養教諭と連携した食育指導の充実・実践に取り組んだ。



栄養教諭による食育指導



食育に関する学習会

- ② 食に関する指導に関わる全体計画の作成のための情報発信や実践資料綴りの作成、先進的に取り組んでいる先生を招聘しての教職員や保護者に対する研修等の実践に取り組んだ。

8月に埼玉大学の野井先生による『子どもたちの心と体』という内容で学習会を実施した。

早寝、早起き、朝ご飯の大切なことについて、科学的な研究からのお話があった。望ましい食習慣の形成については、基本的な生活習慣の確立がまず大切であることが学習会を通して認識された。食育を推進していく上で感謝の心を育み、生活リズムについては、特に家庭や地域の積極的な協力を得ながら推進していきたい。

- ③ 食育年間指導計画の作成を行った

本校としてのめざす子ども像を明確にして、各学年ごとに生活科・総合的な学習の時間を核とした食育の年間指導計画の作成を行った。

本校では、食育事業を豊かな心の醸成の場ととらえ、以下のような考えのもと、諸活動を実践している。

### 『食に関心を持ち、自ら進んで心と体の健康を高める子』

- ① 食に携わる人々に触れ、相手を思いやる気持ちや自然を大切にしようとする気持ち、またそこから生まれる責任感や自主性などを身につけ、豊かな心をもてる子ども。

（健康的な心の育成）・・・感謝の気持ちを持つことによって。

- ② 周りの人と豊かな心で接することのできる社会的態度や適応性・協調性を身に付けた子ども。

（社会性の涵養）・・・望ましい食習慣を身につけることによって。

- ③ 食事と健康の関連性に関心を持ち、自己の食生活についてまたそれに関わる日常生活のあり方について考え実践していくことができる子ども。

（自己管理能力の育成）・・・正しい知識や判断力を養うことによって。

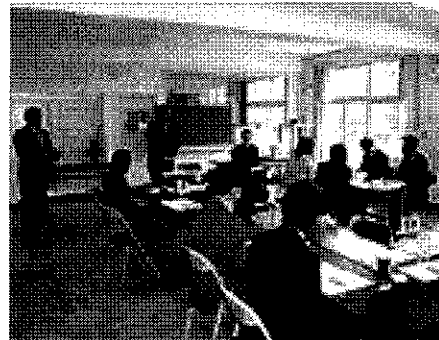
テーマ2

- (1) 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組
- (2) 家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

- ① 6月に全校児童と保護者を対象にアンケート調査を実施した。  
食生活や食習慣についての内容であったが、本校の基本的な研究理念に関する項目について特に取り上げ、考察し、実践の重要な資料としている。
- ② 食育に関する資料、研究・実践した内容等について、学校から家庭や地域に対して『わくわく食育だより』を配布し、食育の事業について理解を深める機会とした。
- ③ 各学年で食育に関わる栽培等の体験活動を実践した。  
教科・生活科・総合的な学習・特別活動等の中で取り組んだ。
  - 1年・・・さつまいも 野菜づくり (なす・きゅうり)
  - 2年・・・ミニとまと とうもろこし
  - 3年・・・カボチャ さつまいも
  - 4年・・・カボチャ さつまいも
  - 5年・・・パケツによる米づくり
  - 6年・・・大豆 味噌づくり
- ④ 10月に先進校の視察として、長野県御代田町立御代田南小学校の見学を行った。  
栄養教諭が今年度から配置され、食育推進を積極的に取り組んでいる。  
地域の産物も給食に取り入れ、生きた教材として食育を進めている。  
施設面でも、充実した内容であり、関係職員からの説明を聞き、実践内容については、これからの本校の実践に大変役に立つ内容の話が多くあった。



わくわく食育だより



先進校視察

テーマ3

- 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

- ⑤ 12月に保護者や地域の皆さんに呼びかけて、味噌を使っての料理教室を開いた。  
地域にある味噌工場の方を講師に招き、味噌造りの様子について学習し、その後山梨学院短期大学の先生を講師に、手軽にできる、味噌を使っての料理教室が行われた。  
レシピも配布し、より家庭や地域に啓発を行った。



学校・家庭・地域の連携の料理教室

## テーマ 1～3 に共通する具体的計画

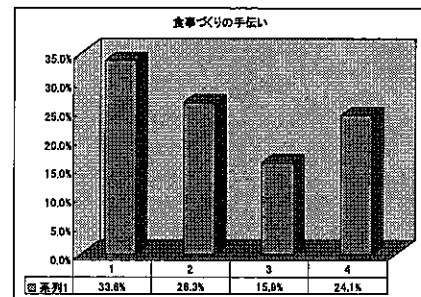
### ※アンケート集計による食生活・食習慣について 児童のアンケートから食事づくりへの参加の様子

毎日の食事への参加の様子は、食事づくりに積極的に手伝うと答えたものは、約 60%、ほとんど手伝わないと答えたものは、約 40% (90 名) いる。

本校の実態は、上記の結果からみると、子どもたちの食事づくりへの関わり方の非常に薄いことがわかる。

- |            |
|------------|
| 1 週に 3 回以上 |
| 2 週に 1～2 回 |
| 3 月に 1～2 回 |
| 4 ほとんどない   |

上記の 3 と 4 に該当する児童は、約 40% おり、(約 90 人) 今後啓発活動を通して指導していくことが課題である。



食事に関わることとして、他に食料品の買い物にどのくらい関わっているか、さらに、食事時の後片づけにどのくらい関わっているか等の項目についても、約 20% 近くの子どもの関わり方の薄いことがわかった。

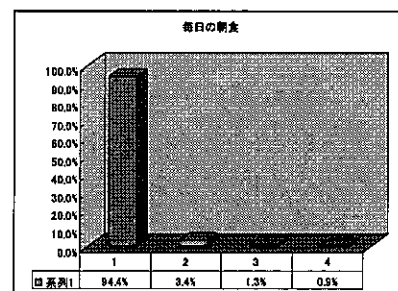
感謝の心をもち、食を大切に考え、取り組んでいく気持ちを育てていくことから食に対する関わり方の大事なことが考えられる。

### 朝食の様子

朝食を毎日必ず食べると答えたものは、本校では、94.4% (全国 85.4%)  
ほとんど食べないと答えたのは、本校では、2% (全国 3.5%)  
本校の実態は、数で判断すると良い状況である。

- |                        |
|------------------------|
| 1 毎日食べる                |
| 2 1 週間に 2～3 日食べないことがある |
| 3 1 週間に 4～5 日食べないことがある |
| 4 ほとんど食べない             |

上記の 2 と 3 と 4 に該当する児童は、5.6% で (13 人) おり、これらの児童をなくしていくことが、これからの食育活動の推進していく上での課題である。



食育活動を豊かな心を育む教育の場として捉え、実践していく基本的な考えのもと取り組んでおり、給食の時間を中心に子どもたちの食に対する意識の高揚も少しずつ変容してきている。

## 調査研究全体を通じて、特に効果のあった方策等について

<p>スイートポテトづくり</p> 	 <p>カレーづくり</p>	<p>ほうとうづくり</p> 
<p>味噌づくり</p> 	 <p>こめづくり</p>	<p>とうもろこし栽培</p> 

○ 栽培活動・調理活動等体験活動を取り入れながら食育活動を推進した。これらの活動を通して子どもたちに少しずつではあるが、食に対して感謝し取り組む気持ちが芽生えてきているようである。これは給食の残飯の量にも現れてきており、教職員はもちろん、子どもたちのなかにも食育の正しい理解が深まってきていると考えられる。

○ 栄養教諭との連携により、より効果的な充実した内容の食指導の展開ができた。

## 今後の課題（今回の調査研究により新たに見えた課題など）

- 今後、教育課程のなかにどのように食育指導を位置づけていくか、また効果的な指導の在り方等について研究を深めていくことが課題として考えられる。
- 正しい食生活・食習慣を学習しながらの健康な心と体を育む教育は、家庭や地域の温かい協力が必要である。これからも各種活動を通して、啓発の活動を展開していくことが重要な課題である。

# 食に関する指導全体計画

<p><b>□公教育の自覚</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法 ・教育基本法</li> <li>・学校教育法 ・学習指導要領</li> </ul> <p><b>□県指導重点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい生活習慣の確立を目指した「健康3原則」の徹底</li> <li>・自然との触れ合い、働く喜びを通じた豊かな心の育成</li> <li>・学校、家庭、地域社会及び関係機関との連携</li> </ul> <p><b>□市指導重点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理能力の育成を目指した健康・安全指導の推進</li> <li>・体験的実践的活動推進</li> <li>・家庭や地域との連携</li> </ul>	<p><b>学校教育目標</b></p> <p><b>たくましい体をつくる子 くふうし、考え、実行する子 みんなでたすけあう心やさしい子</b></p> <p><b>具体的目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□根気強く問題を解決していく子ども</li> <li>□自分の持ち味を生かして、主体的に学習する子ども</li> <li>□他者の立場を思いやり、協力して行動がとれる子ども</li> <li>□気持ちや考えを表現できる子ども</li> <li>□礼儀正しく、決まりや約束を守って望ましい集団生活を営める子ども</li> </ul>	<p><b>□児童の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲れる、だるい等疲労感を持っている児童が多い</li> <li>・朝食欠食の児童が多い</li> <li>・食に関する興味や関心が低い</li> </ul> <p><b>□家庭や地域の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地や商業地が多い</li> <li>・教育や食に関する関心は高く協力的である</li> <li>・自治会等地域の活動は盛んで学校に協力的である</li> </ul> <p><b>□教師の思いや願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や健康に関心を持ち、望ましい食生活を身につけてほしい</li> </ul>
--	---	---

**食に関する指導目標**

□授業実践や食に関する様々な活動を通して、思いやる心、社会性、食と健康に対する思考力・実践力を育てる

□児童の食環境・食生活をよりよいものにしていくために、保護者や地域の方々の協力を得ながら、食の望ましいあり方を考えていく。

**食に関する教育でめざす児童像**

**□健康的な心の育成(感謝の気持ち)**

①食に携わる人に触れることから、相手を思いやる気持ち、自然を大切にしようとする気持ち、またそこから生まれる責任感や自主性などの豊かな心をもてる子ども

**□社会性の涵養(マナー・ルール)**

②食を通じて、他人と豊かな心で接する社会的態度や適応性協調性などを身につけることのできる子ども

**□自己管理能力の育成(ヘルスプロモーション)**

③食事と健康の関連性に関心を持ち、自己の食生活について、またそれに関わる日常生活のあり方について考えることのできる子ども

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
健康的な心の育成	・作物の世話を通して、自然への親しみを持つ。 ・給食には多くの人関わっていることを知り、感謝の気持ちを持つ。	・作物の生長を通して、自然のすばらしさを知る。 ・給食に携わる人々や食べ物になる食材に対しても感謝の気持ちを持つ。	・食農体験を通して、自然の恵みに感謝する気持ちを持つ。 ・食事ができていることは、多くを知り、人々や食べ物に対して感謝の気持ちを持つ。
社会性の涵養	・給食のきまり(挨拶、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・食事のマナー(はしや食器の持ち方、姿勢など)を知り、楽しく食べる。	・楽しい話題や雰囲気作りを工夫し、楽しく食べる。
自己管理能力の育成	・朝食の大切さを知る。 ・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらが代表的な食品を覚えることができる。	・三度の食事の大切さを知る。 ・3つの仲間、赤黄緑の食品の働きを知り、食品を分類することができる。	・規則正しい食事の大切さを理解し、自分の食事を見直す。 ・3つの仲間のバランスを考えて、組み合わせることができる。

**指導場面**

<p><b>各教科・保健室との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□国 場にあった話し方聞き方</li> <li>□社会・食料と生産、流通、消費の仕組みと、そこで働く人々・地域で働く人々</li> <li>□理科・植物の成長・消化呼吸の働き</li> <li>□生活・家族の仕事・野菜作り</li> <li>□家庭・食事のマナー・家族の団らん・栄養のバランス・食品の理解</li> <li>□体育・健康の保持増進・病気の予防</li> <li>□保健室・家庭児童への啓発</li> </ul>	<p><b>給食の時間(栄養教諭との連携)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□食前                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の場にふさわしい環境</li> <li>・身支度、手洗い等の清潔</li> <li>・安全、清潔、能率のよい配膳</li> </ul> </li> <li>□食中                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事のあいさつ</li> <li>・食事のマナー</li> <li>・健康によい正しい食事の採り方</li> </ul> </li> <li>□食後                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・食後の休息 ・効率的な片づけ</li> <li>・歯みがきの励行</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>特別活動(栄養教諭との連携)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□学級活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい食事の採り方</li> <li>・食事と健康</li> </ul> </li> <li>□児童会活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食委員会</li> <li>・放送委員会</li> <li>・保健委員会</li> </ul> </li> <li>□学校行事</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>道 徳</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好ましい人間関係の育成</li> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・感謝の気持ちの育成</li> </ul>
--	---	---

<p style="text-align: center;"><b>総合的な学習の時間</b></p> <p>□食に関する単元を設定し、体験活動を通して課題解決に取り組む。</p>	<p style="text-align: center;"><b>学校・家庭・地域との連携</b></p> <p>□正しい食習慣や食生活を家庭に啓発するため、家庭・地域との連携を図る</p> <p>○地域・校医・保護者・関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、食改推との連携</li> <li>・給食便りの発行 ・アンケートの実施</li> <li>・給食試食会 ・食をテーマとした学級懇談会</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>個別指導</b></p> <p>□一人一人の食の実態に応じたきめ細かな指導を実施し、望ましい生活習慣の確立を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭</li> <li>・養護教諭</li> </ul>
--	---	---

平成19年度 第2学年「食」に関する年間指導計画

学期	1学期					2学期					3学期					低学年到達目標		
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
学校健康目標	自分の体の様子を調べる。	身の回りを清潔にすることが出来る。	歯の健康状態を調べる。	夏を健康に過ごすことが出来る。	夏を健康に過ごすことが出来る。	目を大切にすることが出来る。	寒さや風邪に負けない体作りをすることが出来る。	冬の寒さを乗り越えるための生活について知る。	規則正しい生活をすることが出来る。	心の健康状態を知る。	健康生活を反響させる。							
学校健康目標	食事のマナーを守って、楽しい給食が出来る。	規則正しい食生活の大切さが分かる。	しょうぶや薬や毒を考えることが出来る。	暑さや寒さや不快な食生活を知る。	体の調子をよくするために必要な食品について知る。	体を大切にするための必要な食品について知る。	食生活の大切さを伝える。	冬の寒さを乗り越えるための生活について知る。	学校給食の歴史と郷土料理について理解を深める。	給食に携わる人々に感謝し、食べ物を大切にすることが出来る。	1年間の食生活について振り返り、関心を深めることが出来る。							
学校活動	上手に配膳しよう	大きくなるわたしたち	歯を大切にしよう	暑さや寒さや不快な食生活を克服しよう	体の調子をよくするために必要な食品について知る。	目を大切にするための必要な食品について知る。	寒さや風邪に負けない体作りをすることが出来る。	冬の寒さを乗り越えるための生活について知る。	規則正しい生活をすることが出来る。	心の健康状態を知る。	健康生活を反響させる。							
道徳	上手に配膳しよう	大きくなるわたしたち	歯を大切にしよう	暑さや寒さや不快な食生活を克服しよう	体の調子をよくするために必要な食品について知る。	目を大切にするための必要な食品について知る。	寒さや風邪に負けない体作りをすることが出来る。	冬の寒さを乗り越えるための生活について知る。	規則正しい生活をすることが出来る。	心の健康状態を知る。	健康生活を反響させる。							
生活科	ブツバとバツバ	サバンの子ども	家族愛 4-②	男女なかよくしよう	体の調子をよくするために必要な食品について知る。	目を大切にするための必要な食品について知る。	寒さや風邪に負けない体作りをすることが出来る。	冬の寒さを乗り越えるための生活について知る。	規則正しい生活をすることが出来る。	心の健康状態を知る。	健康生活を反響させる。							
栄養教諭との関わり	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	給食指導 (ワガール)	
学校行事	健康診断 発育測定	健康診断	収穫集会 (食育講話)	収穫集会 (食育講話)	運動会 発育測定	校外学習	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	実習支援 (食育講話)	
教科との関わり	国語 「ふきのとう」	国語 「たんぼほのちえ」			国語 「サンゴの海の生きものたち」	音楽 「祭りだわっしょい」	図工 「わっしょいな」											
学年目標	食生活の大切さを調べる。	身の回りを清潔にすることが出来る。	歯の健康状態を調べる。	夏を健康に過ごすことが出来る。	夏を健康に過ごすことが出来る。	目を大切にすることが出来る。	寒さや風邪に負けない体作りをすることが出来る。	冬の寒さを乗り越えるための生活について知る。	規則正しい生活をすることが出来る。	心の健康状態を知る。	健康生活を反響させる。							
健康心身の育成	・作物の世話を通して、自然への親しみをもち、つ。	・給食には、多くの人を知ら、感謝の気持ちをもち、つ。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	
社会性の涵養	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	・給食のきまり(あいさつ、当番、準備、片付けなど)を知り、仲良く食べる。	
自己管理能力の育成	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。	・朝食の大切さを知る。	・食品は3つの仲間に分けられていることを知り、それらの代表的な食品名を覚えることができる。

ぐんぐんのびろ あそび大すきあつまれ みんな大きくなったよね

観察・世話・収穫・調理

おいしいやさいをそだてたい  
 ○土ってあたたかいね(種まき、苗植え)  
 ・ミニトマト  
 ・えだまめ  
 ・トウモロコシ  
 ・さつまいも

○あきのしゅうかく  
 → ポップコーン

○ようこそ みんなのおまつりへ  
 (祭りでみんなと遊ぼう)  
 (育てた野菜を味わおう)

平成19年度 第5学年 「食」に関する年間指導計画

月	1学期			2学期			3学期			高学年到達目標		
	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月
学校健康目標	自分の体の様子を調べる。	身の回りを清潔にすることが出来る。	夏の健康に過ごすことが出来る。	夏の健康に過ごすことが出来る。	夏を健康に過ごすことが出来る。	目を大切にすることが出来る。	寒さや風邪に負けない体作りをすることが出来る。	冬の寒さを乗り越えるための食生活について知る。	規則正しい生活をすることが出来る。	心の健康状態を知る。	健康状態を調べる。	健康生活の反響をすることが出来る。
学校健康目標	食事のマナーを守って、楽しい給食が出来る。	規則正しい食生活の大切さが分かる。	じょうぶな食生活を考えることが出来る。	暑さや寒さに負けない食生活を考えることが出来る。	体の調子をよくするために必要な食品と必要な食品について知る。	体をつくるために必要な食品と必要な食品について知る。	冬の寒さを乗り越えるための食生活について知る。	学校給食の歴史と郷土料理について理解を深める。	給食に携わる人々に感謝し、食べ物を大切にすることが出来る。	給食に携わる人々に感謝し、食べ物を大切にすることが出来る。	1年間の食生活について振り返り、関心を深めることが出来る。	自然の恵みに感謝する気持ちを持つ。
学校活動	食育マナー	食育の達成(他)	正しい給食のマナー(給食の準備)	夏の健康に過ごすための食生活(給食の準備)	夏の健康に過ごすための食生活(給食の準備)	夏の健康に過ごすための食生活(給食の準備)	冬の寒さを乗り越えるための食生活(給食の準備)	学校給食の歴史と郷土料理について理解を深める。	給食に携わる人々に感謝し、食べ物を大切にすることが出来る。	給食に携わる人々に感謝し、食べ物を大切にすることが出来る。	1年間の食生活について振り返り、関心を深めることが出来る。	食育活動を通して、自然の恵みに感謝する気持ちを持つ。
進捗												
総合的な学習	<p style="text-align: center;"><b>ばけっつDE稲づくり</b></p> <p style="text-align: center;">○稲作りのながれ</p> <p style="text-align: center;">種蒔まき 田植え 中干し 稲刈り 脱穀</p> <p style="text-align: center;">観察・世話・記録</p> <p style="text-align: center;">「おいしい食べよう」</p> <p style="text-align: center;">作ったお米をおいしく食べるには?</p> <p style="text-align: center;">こんだてコンテスト</p> <p style="text-align: center;">大豆を調べよう</p> <p style="text-align: center;">大豆についての調べ学習</p> <p style="text-align: center;">「大豆探検隊」</p> <p style="text-align: center;">・大豆の栄養</p> <p style="text-align: center;">・世界の大豆</p> <p style="text-align: center;">・大豆の歴史</p> <p style="text-align: center;">・大豆の調理等</p> <p style="text-align: center;">大豆づくり</p>											
栄養教諭との関わり	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)	給食指導(7/24-4)
学校行事	健康診断(発音測定)	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断	健康診断
教科との関わり	社会科「農業の盛んな地域をたずねて」	家庭科「簡単な調理をしてみよう」	理科「植物の観察」				家庭科「作っておいしく食べよう」		学校集会(食育講話)	学校集会(食育講話)	学校集会(食育講話)	

※他学年の指導計画については紙面の都合上省略いたします。

## 第2学年 学級活動指導案

指導者 宮川 葉子 (T1:担任)

半田 裕子 (T2:栄養教諭)

### 1 題材 元気大きくせん2 「給食を食べて元気な体をつくろう」

#### 2 題材について

毎日の給食を子ども達はとても楽しみにしている。給食の様子を見ると、なんでも残さずに食べる子や嫌いなものを我慢して食べようと努力している子がいる一方、嫌いなものは残してしまう子が見られる。アンケートの結果からも、給食を残す理由として、時間がない、嫌いだからという答えが多かった。

しかし、子ども達は、全部食べることが良いことだとは分かっているのに、食べきったときには嬉しそうに報告に来る。全部食べられることは、給食を楽しんでいると感じたり、また次にも全部食べられるように頑張ろうという気持ちを持ったりすることにもつながる。

栄養バランスを考えて作られている給食は、全部を食べてこそ健康な体づくりができるようになっている。また、給食は、子ども達に残さず食べて元気になってもらいたいという思いを持って作られ、その陰には多くの人の努力や苦労があることを知ることで感謝の気持ちを養うこともできると考える。

そこで、自分の給食の食べ方をふり返り、好き嫌いなく何でも食べることの大切さを知ることによって、よりよい体づくりをしようしたり、栄養を考えて作られている給食を進んで食べようしたりする態度を育てたいと考える。

#### 3 指導にあたって

○栄養教諭が授業に加わることにより、3つの栄養をバランスよく摂取することを教えることができる。また、給食作りに携わる人々が、子ども達に元気な体をつくってほしいという思いをもって仕事をしていることを直に伝えることもできる。これらを通して、給食を残さずに食べようとする気持ちを持たせるとともに、感謝の気持ちも養いたい。

○低学年の児童にもバランスよく食べることが大切であることを理解させるために、ペープサートを使い、好きなものだけをたくさん食べている3人の友だちが元気をなくしてしまったわけを考えさせることにした。視覚にうったえるペープサートを使うことで、理解しやすいだけでなく、興味を持って3人が元気になるための方法を考えるのではないかと思う。その中でバランスよく何でも食べることが大切であることを気づかせたい。

○給食に使われている食材を提示して、1食の食事にはたくさんの食品が含まれていることを実感させたい。そして、全部を食べることが大切であることを理解させたい。

○ワークシートを使い、自分が給食で食べたもの、残したものを意識させ、残さずに食べようとする気持ちを持たせたいと考えた。また、ワークシートの裏面には、家庭に向けて、本時の学習内容の概要を伝えるものを載せ、栄養バランスの取れた食事の重要性への理解を深めたい。

○給食チェック表は、学習以前だけでなく以後にも使い、自分の食べ方に変化が見られるか確認



させるとともに、残さず食べようとする気持ちが持てるようになったか意識の変容を見たい。また、チェック表は、子ども達の給食の様子を伝えるために、家庭に持ち帰らせ、子ども達の食生活に保護者が関心を持つ機会となるようにしたい。

○1学期に元気大きくせん1「心を元気にしよう」を保健の学習として行っている。その中で、いい気持ちといやな気持ちの時を考え、心が元気な状態であるのは、いい気持ちの時であること、そういう気持ちでいるためには、思いやりの気持ちを持つことが大切であることを学習した。今回は、元気な体づくりをするためにはどうしたらよいかを考えさせたい。

#### 4 本時の授業

- (1) 日 時 平成19年10月15日(月)5校時(2:00～2:45)
- (2) 場 所 琢美小学校2年1組
- (3) ね ら い 好き嫌いなく何でも食べることで元気な体づくりをしようとする気持ちを持つ。
- (4) 展 開

流れ	学習活動	教師の支援	評価	資料・備考
つ か む	1. 今日の給食はよく食べられたかどうかふり返る。 ・豚汁はおいしかった。 ・お魚は残してしまった。 ・キャベツのおかか煮は残してしまった。 ・ごはんは少し残した。 ・ゼリーは食べた。  2. 本時の学習内容を知る。	・全部食べられた子もいるけど、残してしまうものがあることに気づかせ、その理由も考えさせる。 ・嫌いだから残しているということを意識させる。		・給食の写真 T1
きゅうしょくを食べて元気な体をつくろう				
ふ か め る	3. ペープサート「元気大きくせん」を見る。	・好きなものばかり食べていた3人がどうなったかを考えさせる。 ○赤だけ食べていた：うんちがでなくて元気が出ない ○黄色だけ食べていた：体が重くて元気が出ない ○緑だけ食べていた：力がでなくて元気が出ない	関心・意欲・態度	・ペープサート「元気大きくせん」 T1 T2

ふ か め る	4. 3人の友だちが元気をなくしてしまったわけを考える。 ・好きなものばかり食べた。 ・たくさん食べすぎた。 ・色々なものを食べなかった。	・3人の友だちは、たくさんおいしいものを食べたのに元気がなくなってしまったのはどうしてかを考えさせる。		T1
	5. 「元気な体をつくるひみつの話」を聞く	・元気な体をつくるためには、次のようなことが大切であることをおさえる。 ○食べ物には赤、黄色、緑の仲間があり、どれも体にとって大切である。 ○同じものばかりたくさん食べるのではなく、色々な食品を食べることが大切である。 ○給食は3つの色の食品をどれも含んでいるから残さず食べること。  ・栄養教諭や調理員さんなど献立や給食を作っている人々の思いも伝えるようにする。	知識・理解	・給食に使った食材  T2
ま と め る	6. 自分の給食チェック表を見て、これからどのような食べ方をしたらよいか考える。	・給食チェック表を見て、自分の食べ方はどうだったかを考えさせ、これからどのような食べ方をしていったらよいか考えを書かせる。 ・元気な体をつくるためにはどのような食べ方が大切かを考えさせる。	思考・判断	・ワークシート T1

(5) 評価

関心・意欲・態度	・興味を持ってペープサートを見ている。	観察
思考・判断	・元気な体をつくるためには、好き嫌いなく何でも食べることが大切だと分かる。	観察・ワークシート
知識・理解	・元気な体をつくるために、給食を好き嫌いなく何でも食べようとする気持ちを持つことができる。	ワークシート

## 5 授業を振り返って

### (1) 授業者の反省

- ・アンケートの結果から、嫌いなものがあるために給食を残すことが多いという実態が見えてきた。そこから、なぜ食べなくてはいけないのかという理由づけになり、嫌いなものががんばって食べようという気持ちが生まれるような授業を設定した。
- ・食材を、赤・黄・緑の3つに分けることは、低学年の児童にとって抵抗があるのではと心配されたが、食材で細かく分けるのではなく、献立で分けて取り組みやすくしたため、2年生にも無理なく取り組めたようだ。
- ・児童に、栄養面から専門的な知識を生かしてアプローチができるよう栄養教諭とのTTの形を工夫したため、児童にとっては新鮮で興味深く学習することができた。
- ・栄養的な知識や経験が少ない低学年の授業ということで、聞くことが多く児童の活動が少なくなりがちだったので、栄養教諭とのかけ合いや、教材、教具の工夫などの手だてを考えてきた。児童は最後まで授業に集中することができ、理解も深まったが、前に立つ必要がない時は机間巡視をするなど、TTの授業形態についてはもっと考える余地があった。

### (2) 研究討議・指導助言

#### ○栄養教諭との関わり・家庭との連携について

- ・全体計画の中で栄養教諭を生かすことのできる場面を考え、継続的に定着できるようにしたい。
- ・交流と連携の違いを明確にしなが、何を一緒にやっていくのかお互いに出し合うようにしていきたい。
- ・ワークシートの裏面を家庭との連携に活用するのは、良いアイデア。家庭での食生活の改善も図っていきたい。

勉強を通じて、自分の好きなものだけでなく、いろいろなものを食べるようにしたいと本人が自覚したことがすばらしいと思います。子どもにとっての食育の授業の重要性を感じました。

#### 保護者の感想より



#### 児童の感想より

きょうの勉強で、きゅう食はバランスよくつくられていることを知りました。自分の好きなものばかり食べていては、けんこうじゃなくなることもわかりました。赤・黄・みどりをバランスよく食べなきゃいけないだと思いました。

#### ○校内研の主題と関わって

- ・内容が盛りだくさんで、「バランスよく食べる」「感謝の気持ち」の二つに視点をあてていたが、「感謝」の気持ちは与えるものではなく自分の心から生まれるものでもあり、今回はもっと軽く扱っても良かったのではないかな。
- ・「給食を食べて元気な体をつくろう」という投げかけがよかった。児童は同じ家庭環境にあるわけではなく、プライベートな面の大きい食に関しては特に配慮が必要である。給食指導をいかに意識的に行うかが大切である。
- ・教材や教具の工夫が効果的であった。提示する食品や分類の数は2年生にはちょっと多かったのではないかな。無理のない範囲で取り組んでいきたい。

# 取組の様子

## 〈栽培体験活動〉



さつまいも



ミニトマト

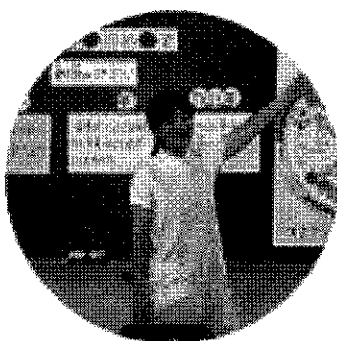


稲

## 〈地域との連携〉



研究授業参観



栄養教諭を中核として

## 〈料理体験活動〉



すいとんづくり



開放授業参観

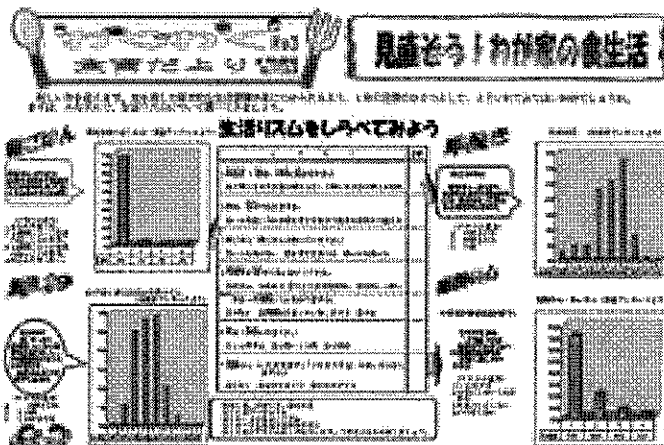
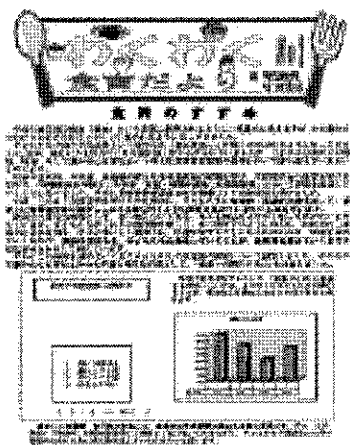


地域との料理教室



ほうとうづくり

## 〈広報活動〉



「栄養教諭を中核とした  
学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」

- ・ 推進地域 笛吹市
- ・ 実践中心校 笛吹市立八代小学校
- ・ 事業委託先 笛吹市教育委員会

# 事業報告

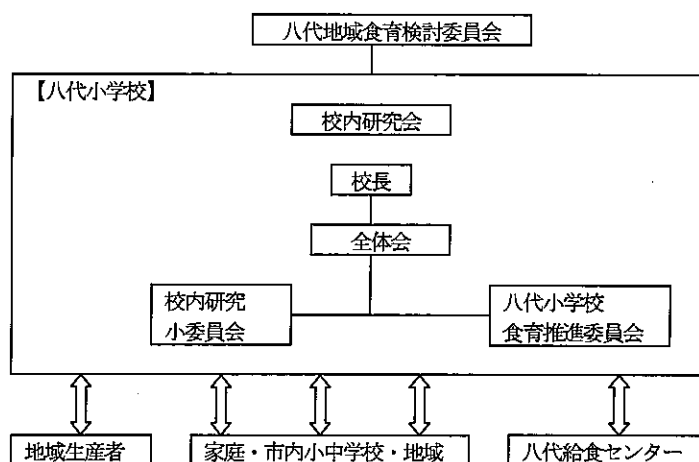
各テーマにおいて、調査研究の具体的内容や研究結果

## 1. 推進地域（笛吹市）実践中心校（八代小学校）

### テーマ1 各教科等における食に関する指導の充実のための取組

#### ① 食に関する指導の全体計画及び、年間指導計画の作成

実態調査や教科等との関連性、食に関する指導の各学年のねらいや指導内容を検討し、全体計画と年間指導計画の作成を行った。



#### ② 食に関する指導の実践

##### ○学級活動における各学年の実践

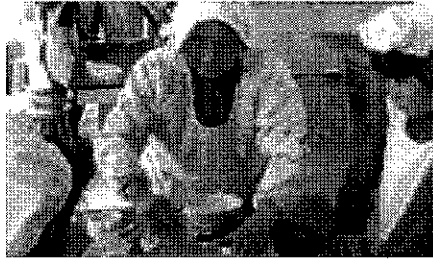
- 1年「おなかすっきり食物繊維」
- 2年「いろいろな野菜を食べよう」
- 3年「カルシウムの働きを知ろう」
- 4年「元気のもとになる朝ごはんを考えよう」
- 5年「お米の良さを知ろう」
- 6年「バランスのよい組み合わせ（希望献立を考えよう）」



##### ○食に関わる体験活動

教科、総合的な学習の時間、特別活動などとの関連を図りながら次のようなテーマで各学年ごと計画を立てて活動を進めてきた。

- 1年・・・さつまいもを育ててパーティーをしよう（生活科・学級活動）
- 2年・・・サラダパーティーをしよう・ほうとうづくりをしよう（生活科・学級活動）
- 3年・・・ぶどうジャム作りに挑戦しよう（総合的な学習の時間）
- 4年・・・昔の食べ物を調べよう（社会科）
- 5年・・・おいしいお米を作り、ご飯のパワーを調べよう  
（社会科・家庭科・総合的な学習の時間）
- 6年・・・自分で食事をつくってみよう（家庭科・総合的な学習の時間・学級活動）



昔のおやつ（うす焼き作り）

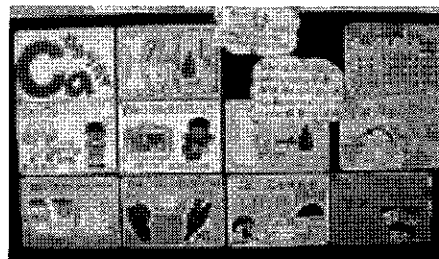
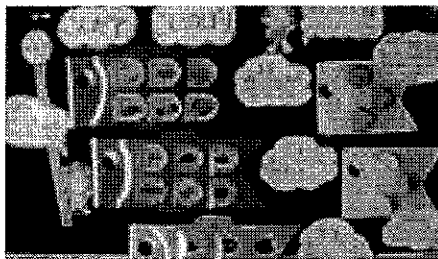


ぶどうジャム作り

### ○給食時間の指導

栄養教諭が教室訪問し、食品や料理についての一口指導やマナーについての指導を行ってきた。また、その日の給食を通して伝えたいことは、「献立一口メモ」として全校に放送で伝えている。

配膳室前に、当日の献立と使用食品のほか、月別の指導内容や季節に応じた資料を掲示し、児童が食に興味や関心を持てるようにしている。



## テーマ2

- (1) 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組
- (2) 家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

### (2) 家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

#### ① 食生活アンケートの実施

6月に全校児童と保護者を対象にアンケート調査を実施した。

#### ② 試食会、学習会の実施

○1年生の保護者を対象とした試食会・学習会 5月10日

1年生の各教室で親子いっしょに給食を食べた後、学校給食や朝食の大切さなどについて栄養教諭が話をした。

○食育講演会 1月25日

演題「食で育む子どもの心と体」

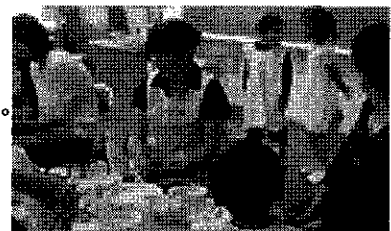
講師金田雅代先生（女子栄養大学短期大学部教授）

#### ③ 親子ふれあいDAY（PTA 執行部主催）・・・8月4日親子料理教室の実施

（餃子作り・揚げ菓子作り）

#### ④ 給食だより・食育だよりの発行

給食だよりは、献立表といっしょに毎月配布し、季節に応じた内容やレシピの紹介などを載せてきた。食育だよりでは、実態調査の結果や望ましい食習慣などについて情報を発信し、保護者だけでなく八代地区の全家庭で読んでいただけるように回覧板で回覧した。



1年生親子給食会



親子料理教室

### テーマ3 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

#### ① 地域人材・外部講師の活用

3年生の「ぶどうジャム作りに挑戦しよう」の活動では、ぶどうの房作りの時に吉川元校長先生に、ジャム作りの時には八代町特産品開発研究会のみなさんに講師をお願いした。地域の方々の協力により、体験活動がより充実し、学習効果が高まった。

#### ② 地場産物の活用



地域の農産物や加工品を学校給食に取り入れるために、JA 八代支所や八代町特産品開発研究会の方々との連携を図ってきた。

使用した農産物・・・とうもろこし（6月）、なす（8～9月）、ぶどう（9～10月）

JAより納品

使用した加工品・・・桃のシロップ漬け、ぶどうジャム（通年）  
特産品開発研究会より納品

### テーマ1～3に共通する具体的計画

#### ※先進地視察の結果など

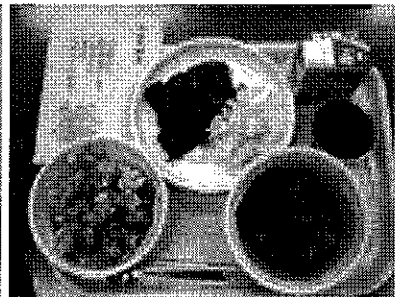
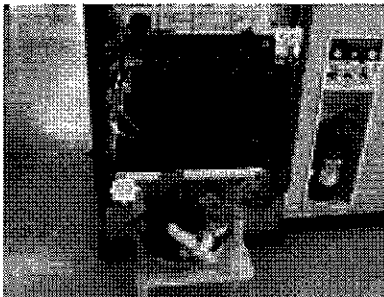
平成19年10月26日埼玉県鳩ヶ谷市立辻小学校八代地域食育検討委員会9名参加。

本年度、「学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業」の中心校として研究を進めている。

ここ数年来、食教育に関する取り組みを進め、

- ① 食に関する全体計画並び年間指導計画の作成、計画に基づいた学習指導の実施
- ② 行事食や伝統食の導入、地場産農作物を使用した献立の開発
- ③ 地域の方との交流給食の実施
- ④ 地域生産者とのネットワーク構築と学習指導への参加
- ⑤ 地域や保護者を対象とした啓発活動の実施等

特色ある先進的な取り組みを行い、朝食欠食率の改善や給食残量の減少などの多くの成果を収めている。学校長、研究委員長、栄養教諭から説明があり、その研究内容や教育実践には、本校の研究の参考となるお話がたくさんあった。





#### ※アンケート集計により、見えてきた傾向など

児童の「食生活アンケート」の結果から（平成19年6月実施）

- ・毎日朝食を食べている児童が88%、ときどき食べない10%、ときどき食べる1%、ほとんど食べない1%という結果だった。また食べてはいるがその内容に課題があった。食べない理由は「時間がない」「食欲がない」がほとんどで、夜型の生活が影響していると思われる。就寝時刻をみると、11時以降という児童が7%いた。中には12時と答えた児童もいた。早寝・早起きという基本的な生活習慣の改善や朝食欠食者ゼロ、朝食の内容充実を目指した取り組みが必要である。
- ・食事状況については「家族そろって」66%「家族の誰かと」33%「ひとりで」1%であった。一人で食べる「孤食」は全国的なデータと比較すると少ないが、孤食や子どもだけの食事は、栄養の偏りだけでなく、心の発達にも大きく影響するという指摘もある。家族で楽しい食卓を囲むよう心がけてほしい。

保護者の「食生活・食育アンケート」の結果から（平成19年6月実施）

- ・子どもの好き嫌いについて、73%の保護者が「好き嫌いがある」と答えている。嫌いな食品を食品群別に見ると野菜が圧倒的に多く、次が魚介類だった。この結果から、生活科で野菜作りに興味を持った2年生で「野菜を食べよう」という授業を行った。魚介類については、クイズや写真を掲示し、興味関心を持つように工夫した。
- ・家庭での食育としては、「食事のマナー」や「好き嫌いをなく食べる」については教えている家庭が多く、逆に「食品の安全性」「食文化」「食品の栄養、旬」については教えている家庭が少なかった。
- ・学校給食について何を望みますか？という質問に対しては、「安全な食品を使用してほしい」「栄養バランスのよい食事について理解させてほしい」「栄養や食品の知識を身につけさせてほしい」と答えた保護者が多かった。

### 調査研究全体を通じて、特に効果のあった方策等について

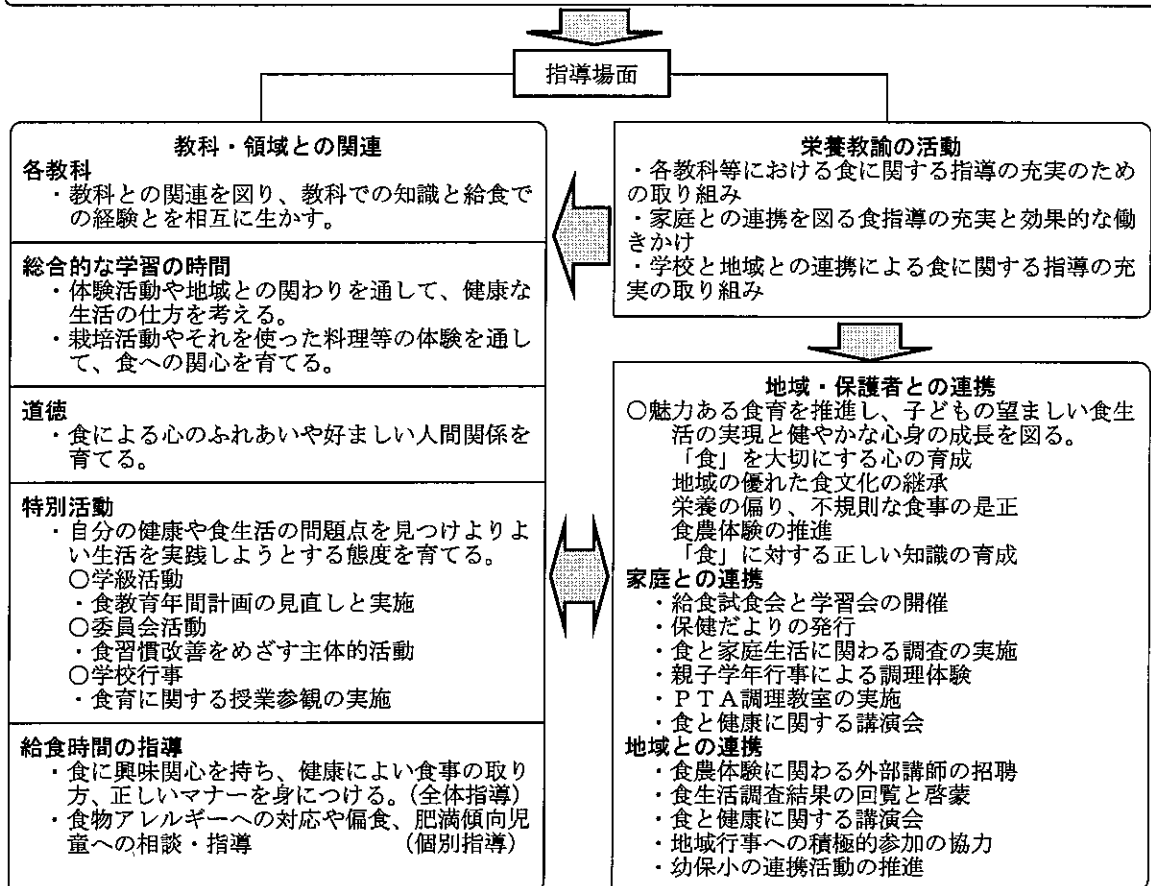
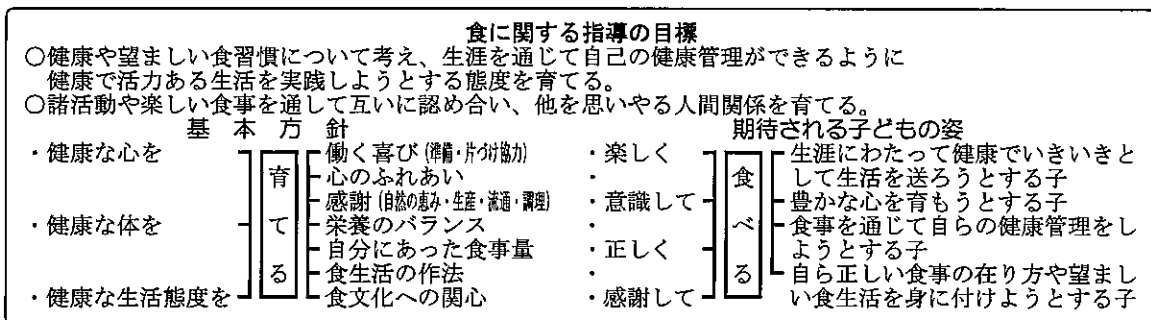
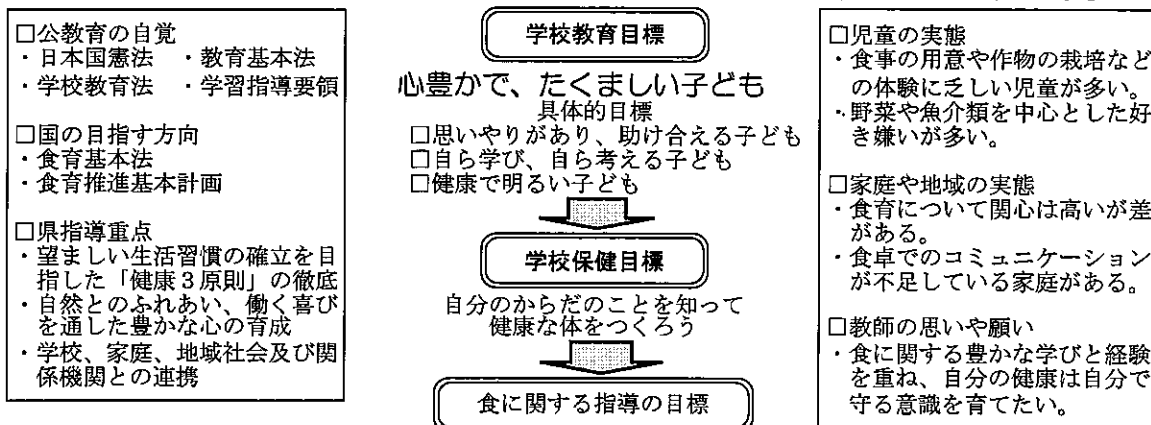
- 学級活動における食に関する指導では、視覚に訴える資料や教具を工夫し、理解を深めることができた。また教科や総合的な学習の時間などの学習と関連づけた指導を行うことにより、意欲や学習効果を高めることができた。授業参観で授業を行うことにより、家庭でも話題になり、食習慣を改善するきっかけになった。教師、子ども、保護者がいっしょに食の大切さを考えることができた。
- 食に関わる体験活動では、作物を育て収穫しそれを食するという一連の活動を通して、食べ物が食べられるようになるまでにかかる時間と労力が体感でき意義深い活動となった。親子活動として実施することにより、保護者の理解を深めることができた。
- 栄養教諭がTTとして授業に関わったり、地域の方々に講師をお願いすることにより、充実した活動となり学習効果も高まった。

### 今後の課題（今回の調査研究により新たに見えた課題など）

- 食に関する指導を行った後の給食では、残菜もほとんどなく効果が現れるが、継続的な指導を行い、児童の意欲を持続させていくことが大切である。
- 教育課程に位置づけ、学年ごと、系統的、継続的に食に関する指導を行っていくことが必要である。
- 家庭によって、食への関心や取り組み方も様々である。全ての家庭で児童の健康を考え、力を入れて取り組んでもらうためにはどのような働きかけをしていくかが課題である。

# 平成19年度 食に関する指導の全体計画

笛吹市立八代小学校



平成19年度 学級活動(給食)の年間指導計画

※(1)・・・1単位 (給)・・・給食時 (随)・・・随時

八代小学校 No.1

月	主 題	目 標	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生
4	楽しい給食	給食のきまりについて理解する 進んで当番の活動ができる	(1)給食のきまり ・給食当番の仕事がわかる。 ・身支度について知る。 ・手洗いの方法を知る。 ・準備・片付けの方法を知る。	(給)給食のきまり ・給食当番の仕事を知り、準備が手順よくできる。 ・後片付けが協力して能率よくできる。	(給)給食のきまり ・給食当番の仕事を知り、準備が手順よくできる。 ・後片付けが協力して能率よくできる。	(給)給食のきまり ・給食当番の仕事を知り、準備が手順よくできる。 ・後片付けが協力して能率よくできる。	(給)楽しい給食の工夫 ・準備や片付けを手際よく能率的にする方法を考える。 ・食事にふさわしい環境作りができる。	(給)楽しい給食の工夫 ・準備や片付けを手際よく能率的にする方法を考える。 ・食事にふさわしい環境作りができる。
5	食事の作法	基本的な食事の作法を身につける	(給)基本的な食事のしかた ・よい姿勢で食事ができる。 ・食事の約束を知る。	(給)はしの正しい持ち方を 知る。 ・マナー違反のはしの使い方を 知る。	(給)和食のマナー ・はしや茶碗の持ち方を 知る。 ・食器の置き方を知る。	(給)食事のあいさつ ・「いただきます!」「ごちそうさま!」の 意味を知る。 ・心をこめて食事の あいさつができる。	(給)食事のマナー ・食事のマナーを身につけ つづけて着いて食べ ることができる。 ・食後の休養について 知る。	(給)食事のマナー ・食事のマナーを守って 楽しく食事ができる。 ・話題を選び、楽しい 雰囲気の中で食事が できる。
6	じょうぶな骨や歯	じょうぶな骨や歯をつくるための 食生活を心がける	(給)牛乳を飲む ・牛乳にはカルシウムが たくさん入っていること を知る。 ・カルシウムはじょうぶな 骨や歯をつくるための 栄養素であること を知る。	(給)よくかんで食べる ・よくかんだ食べることが 体によいこと を知る。 ・よくかんで食べることが できる。	(1)カルシウムの働き ・カルシウムの働きを 知る。 ・カルシウムの多い食品 を知る。 ・丈夫な骨や歯をつくる ための食生活を知る。	(給)かむことの効果 ・よくかむことの効果を 知る。 ・かみごたえのある食べ 物を知る。 ・よくかんで食べることが できる。	(給)カルシウムのとり方 ・カルシウムが成長期に 大切な栄養素である ことを知る。 ・カルシウムの上手な とり方を知る。	(随)骨粗しょう症 ・骨粗しょう症について 知る。 ・骨粗しょう症にならない ための食生活を心がけ ることができる。
7	健康によい食事① (夏の食生活)	食事と健康とのかわりを知り 望ましい食習慣を身につける	(随)おやつとり方 ・おやつ役割を知る。 ・おやつに適する食べ物 を知る。 ・おやつは時間を決めて 食べ過ぎないように する。	(1)上手なおやつとり方 ・おやつとりすぎによる 体への影響を知る。 ・おやつのよい食べ方を 知る。	(随)夏の食生活 ・夏を元気に過ごすため の食生活を知る。	(随)夏の食生活 ・夏負けしないための 食生活を心がけること ができる。	(随)おやつの量と質 ・塩分、糖分、脂肪のとり 過ぎによる体への影響 を知る。 ・望ましいおやつとり方 ができる。	(随)おやつ上手な選び方 ・品質表示について知る。 ・食品添加物について 知る。 ・品質表示を見ておやつ を選ぶことができる。
9	規則正しい食生活	規則正しい食生活の大切さが わかる	(随)食事の大切さ ・毎日元気な生活をおくる ために、食べ物から必要 な栄養をとっていること を知る。	(随)食事の大切さ ・毎日元気な生活をおくる ために、食べ物から必要 な栄養をとっていること を知る。	(随)三度の食事 ・1日3回の食事をする ことが健康によいこと を知る。	(1)朝食の大切さ ・朝食の大切さを知る ・朝食を食べないときの 影響を知る ・理想的な朝食について 知る。	(随)生活のリズム ・規則正しい生活リズムが 健康づくりに大切なこと を知る。 ・規則正しい生活が できる。	(随)栄養・運動・休養 ・健康な体づくりには栄養 、運動、休養の3つが 必要なこと を知る。
10	バランスの良い食事	栄養素の働きを知りバランスよく 食べることができる	(1)食品の3つの仲間 ・食品は3つの仲間により 赤、黄、緑の8つの仲間 に分けられること を知る。	(給)食品の3つの仲間 ・食品の3つの仲間 その働きを知る。	(給)食品の3つの仲間 ・赤、黄、緑の仲間食品 が不足したときの体への 影響を知る。	(給)バランスよく食べる ・いろいろな食品を組み 合わせて食べることに より健康な体がつくれ ることを知る。	(給)バランスよく食べる ・食品を3つの仲間に分け ることができる。 ・栄養のバランスを考え て食 べることができる。	(1)バランスのよい食事 ・栄養のバランスのとれた 献立を立てることができ る。(希望献立)

月	主題	目標	学年別指導内容					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
11	食べ物の栄養① (野菜・果物・いも・米)	食べ物の栄養を知り、好き嫌いなく何でも食べることができる	(給) 食べ物の名前 ・野菜、くだもの、いもの名前を知る。 ・さつまいもの栄養を知る。	(1) 野菜を食べよう ・野菜を働さを知る。 ・いろいろな野菜を食べることができ。	(給) 野菜の2つの仲間 ・野菜には緑黄色野菜と淡色野菜の2種類があることを知る。	(給) 野菜の2つの仲間 ・緑黄色野菜と淡色野菜の栄養について知る。	(1) 米の栄養 ・米の栄養を知る。 ・米の栄養を知る。 ・日本型食生活について知る。	(給) 貧血と食生活 ・貧血について知る。 ・貧血を予防するための食生活について知る。 ・鉄を多く含む食品を知る。
12	健康によい食事② (冬の食生活)	食事と健康とのかわりを知り望ましい食習慣を身につける	(給) 好き嫌いをなく食べる ・好き嫌いをなく食べることが元氣な体をつくることを知る。	(給) 好き嫌いをなく食べる ・自分の好き嫌いを知る。 ・好き嫌いをなく食べることができ。	(随) かげの予防 ・かげの予防に効果のある食べ物を知る。	(随) かげの予防 ・かげに負けないための食生活を知る。	(随) 冬休みの食生活 ・冬を元気に過ごすための食生活を知る。 ・寒さに負けない食生活ができる。	
1	食について考えよう	給食の歴史や意義について知り食べ物の大切さがわかる	(随) 学校給食週間 ・給食週間について知る。 ・給食センターの仕事を知る。 ・調理員さんの仕事を知ることができ。	(随) 学校給食週間 ・給食週間で働く人たちの仕事を知る。 ・感謝して食べることができ。	(随) 給食ができるまで ・給食センターの1日を知る。 ・給食の歴史を知る。 ・給食ができるまでには多くの人たちの努力があることを知る。 ・感謝して食べることができ。	(随) 給食の歴史 ・給食の役割を知る。 ・給食の歴史を知る。 ・感謝して食べることができ。	(随) 郷土食・行事食 ・郷土に伝わる食事を知る。 ・郷土の産物を知る。 ・年中行事にちなんだ食事やいわれを知る。 ・生産者や自然の恵みに感謝して食べる。	(随) 日本の食事情 ・日本の食事情について考える。 ・食べ物を大切にすること。 ・感謝して食べる。
2	食べ物の栄養② (魚・大豆・海藻)	食べ物の栄養を知り、好き嫌いなく何でも食べることができる	(給) 食べ物の名前 ・魚、豆、海藻の名前を知る。	(給) 魚の栄養 ・魚の栄養について知る。	(給) 大豆の栄養 ・大豆の栄養について知る。 ・大豆の加工品を知る。	(給) 食物繊維 ・食物繊維の働きについて知る。 ・食物繊維を多く含む食品を知る。	(給) 海藻の栄養 ・海藻の種類を知る。 ・海藻の栄養について知る。	(随) 生活習慣病 ・生活習慣病について知る。 ・食習慣が健康に重要な関わりがあることを理解し、望ましい食生活を実践することができる。
3	一年間の反省	一年間の給食を振り返って食生活への関心を高める	(随) 給食の反省 ・一年間の給食を振り返る。 ・楽しい給食時間を過ごすことができたか。 ・好き嫌いをなく食べることができたか。 ・準備や後片付けが協力してできたか。	(随) 給食の反省 ・一年間の給食を振り返る。 ・楽しい給食時間を過ごすことができたか。 ・好き嫌いをなく食べることができたか。 ・準備や後片付けが協力してできたか。	(随) 給食の反省 ・一年間の給食を振り返る。 ・楽しい給食時間を過ごすことができたか。 ・好き嫌いをなく食べることができたか。 ・準備や後片付けが協力してできたか。	(随) 給食の反省 ・一年間の給食を振り返る。 ・楽しい給食時間を過ごすことができたか。 ・好き嫌いをなく食べることができたか。 ・準備や後片付けが協力してできたか。	(随) 食生活の反省 ・1年間の食生活を振り返る。 ・自分の食生活の改善点を知る。 ・より良い食生活を実践しようとする。	

# 第1学年 学級活動（給食）指導案

授業者 学級担任 功刀よし美  
中川 礼子  
望月志津子  
梶原 宣仁  
栄養教諭 早川 貞子

## 1 題材名 おなかすっきり 食物繊維

### 2 題材について

現代社会を見てみると、食品の数は品種改良などにより飛躍的に増え、ビニールハウスなどの普及によりスーパーなどには1年中たくさんの食品が並び、いつでも好きな食べ物を口にすることができるようになった。また、食生活の洋風化、インスタント食品、加工食品の利用、外食産業の普及などにより、日本人の食生活にも変化が見られるようになってきた。このように、一面では食生活は豊かになったように見えるが、一方では食品の旬が失われ、手作りの良さよりも手軽さがうけるようになってきた。また、肉類の摂取が増える一方で、野菜類、豆類などの摂取が減少し、食物繊維の摂取不足が指摘されるようになった。

現代の子どもたちの実態からみてみると、生活が夜型になってきたのにもない、食生活の乱れが指摘されるようになってきている。朝ごはんを食べない子、食事をしていても食事の内容や「個食」や「孤食」などの問題も叫ばれている。

本校の1年生の実態を「食生活アンケート」からみてみると、朝食を食べないという児童はほとんどいない。しかし、食事の内容をみると、主食はしっかり食べているものの、主菜については卵料理や肉料理をとっている子が多い。副菜については、サラダを食べている児童が多いが、約半数の児童は副菜を食べていなかった。また、主食のみという児童もいた。朝食を食べてはいても、その内容に課題があることが伺われる。主食、主菜、副菜のそろった理想的な食事に近づけていくための指導が必要だと思われる。保護者へのアンケートでは、家庭の食事における食品の使用頻度をみると、食物繊維が豊富に含まれているいも類、魚介類、海草類の使用頻度が少なかった。

また、朝の便通がないままに登校する子が多く、朝から「おなかが痛い。」と訴えたり、給食の途中や食べ終わるとすぐにトイレに駆け込んだりする姿が見られるなど、食物繊維の不足が影響していると思われる子もみられる。

食物繊維には大腸の働きを促進し、便通を整えたり、コレステロールの吸収や、血糖値の上昇を抑え、生活習慣病の予防に効果があるなど、私たちの健康に大切な役割をはたしている。そこで、食べ物がうんちになるまでの道筋や食物繊維と排便とのかかわりを知らせ、食物繊維の多い食品を進んで食べようとする意欲を育てたい。

1年生の子どもたちは、生活科の学習で「さつまいも」の苗を植え、水やりや草取りなどの世話をしてきた。収穫を間近にして、どのようにして自分たちで育てた「さつまいも」を食べようか楽しみにしている。本時では、その「さつまいも」にもたくさんの食物繊維が含まれているこ

とを知り、学習への興味や関心を高めたい。また、学年全体で行う授業なので、役割演技を取り入れたり、視覚に訴えたりすることで、楽しく学習に向かえるように配慮していきたい。

### 3 目標

食物繊維の働きを知り、進んで食物繊維をとろうとする意欲を持つ。

### 4 評価

- ・食物繊維の働きが理解できたか。
- ・食物繊維の多い食品を進んで食べようとする意欲を持つことができたか。

### 5 本時の学習

- (1) 日時 平成 19 年 10 月 15 日 (月) 5 校時 (2:00 ~ 2:45)
- (2) 場所 琢美小学校 2 年 1 組
- (3) ねらい 好き嫌いなく何でも食べることで元気な体づくりをしようとする気持ちを持つ。
- (4) 展開

学習内容	指導上の留意点		資料・教具
1. おなかが痛くなった A さんの原因を考える。	<p>○便秘でお腹が痛くなった A さんが遅れて教室に入ってくる。</p> <p>○A さんの食生活を紹介し、お腹を治すにはどうすればよいか考えさせる。</p> <p>〈A さんの食生活〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜が嫌い</li> <li>・朝寝坊で朝食を食べる時間がない</li> <li>・うんちが出ていない</li> </ul>	T1 T2	
2. 食べ物がうんちになるまでを知る。	<p>○食べ物が排泄されるまでを食育エプロンを使って説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物は、胃で溶かされ小腸で栄養分、大腸で水分が吸い取られ、いらぬものがうんちになる。</li> <li>・腸の中に長くいると、ガンなどの病気の原因になるので、量をふやして早く出したほうがよい。</li> <li>・バナナうんちは体が元気であることの証拠であることを伝える。</li> </ul> <p>(食育エプロンを着けた T3 と対話しながら進める。)</p>	T3 栄	<p>食育エプロン 「元気なまあちゃん」</p> <p>バナナうんちの絵</p>



- ・食物繊維の働きについては、軍手人形の「センイクン」を使って、食べ物のかすや体に不要なものを取っていく様子を見せながら説明したことで、児童にも分かりやすく理解することができ、学習に対する意欲を高めることができた。
- ・食物繊維が多く含まれている食べ物については、子どもたちは野菜に多く含まれていることが何となく分かっていたようで、たくさんの意見が出された。しかし、きのこ類や海草類、いも類にも食物繊維が多く含まれていることは知らなかったようで、驚きの表情がみられた。特に、自分たちが育ててきた「さつまいも」にも多くの食物繊維が含まれていることには、びっくりしていたようだった。また、食品カードや料理カードを使ったことで、児童の関心が高まった。
- ・内容的に1年生には難しいところもあったが、食育エプロン・軍手人形「センイクン」・食品カードや料理カードなどの視覚に訴える資料や教具を多く使ったことによって、1年生なりに食物繊維の働きについて理解することができた。また、生活科で自分たちが育ててきた「さつまいも」と絡ませることによって児童の意欲を高めることができた。
- ・子どもたちなりに食物繊維の働きや大切さを理解できたことによって、この授業の次の給食では、子どもたちから「この野菜には食物繊維がたくさん入っているんだよね。」「海草には食物繊維がたくさん入っているから、残さないで食べなくちゃ。」といった声が聞かれ、給食の残菜もほとんどなかった。今後は、継続的に声をかけたり、指導したりするなかで、児童の意識を持続させていきたい。また、学校開放日に合わせて授業をしたが、食生活という点で家庭との連携を図っていくことの大切さも感じている。



